令和4年度　茨木市中心市街地活性化基本計画の定期フォローアップに関する報告

令和5年5月

茨木市（大阪府）

〇計画期間：令和元年 12 月～令和7年3月（5年4月）

Ⅰ．中心市街地全体に係る評価

1．令和4年度終了時点（令和5年3月 31 日時点）の中心市街地の概況

令和元年 12 月以降、認定基本計画に基づき、「多様な文化が集い、まちへの愛着を育む賑わい拠点」をまちづくりのコンセプトとし、中心市街地内に魅力ある商業機能や居心地の良い空間を創出するための各事業を実施している。

令和４年は目標指標のうち「計画掲載事業を活用した新規出店数」、「平日昼間の歩行者通行量」ともに増加し、過去最高の数値となった。この背景には、中心市街地内で前年度から 450 人の人口が増加したことに加え、リモートワークの普及等で公共交通を利用しての外出を控え、自宅周辺での買い物や飲食等をするウィズ・コロナ時代の新たな生活様式が定着したことも要因として考えられる。

中心市街地への新規出店数が過去最高数値となった要因は、上記に加えて、茨木市創業促進事業補助金及び茨木市小売店舗改築（改装）事業補助金の活用が順調に進んだことや、まちづくり会社による商店街にぎわい空間整備事業として古民家を改装したカフェと、ハンドメイドクリエイターと起業家が集まる場を備えたクリエイターズマーケット整備事業の複合施設「omo café+c」が令和４年５月に開業、同施設内でクリエイタースペース３区画が整備されたことが大きい。

また、歩行者通行量は全ての調査地点で前年度比増加だが、特に令和３年では未だ減少していた中心市街地の中心に位置する市民会館跡地地点においても増加に転じ、新型コロナウイルス感染症の拡大以前は JR 茨木駅周辺地点に及ばなかった商店街周辺地点が最も高水準を維持しながら増加と、まちなかの人流が先行して増えていることが注目される。

目標指標のうち参考指標として掲げた「公共空間活用件数」については、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、予定されていたイベントの開催自粛の他、調査対象である中央公園の南グラウンドが文化複合施設等の整備のため工事中であり十分な活用ができる状況になく、46 件／年と基準値には届かなかった。一方で、旧市民会館跡地において市民が公共空間の使い方を検討・実験する「IBALAB@広場」の取組や、まちづくり会社 FIC ベース株式会社によるマルシェイベントの開催等、市民や事業者による多様な活動が積極的に取組まれた。

令和５年秋には中心市街地の中心部に文化複合施設・広場「おにクル」が開館を控えており、その集客効果を JR 茨木駅、阪急茨木市駅前をはじめエリア全体の回遊性の向上や賑わいの創出へと繋げていくためにも、引き続き市民・事業者と共に公共空間の豊かな活用のあり方を模索しながら、目標達成を図る必要がある。

今後は、官学民による連携を一層広げ、「omo café+c」をはじめとしたまちづくり会社の店舗設置・誘致による魅力ある商空間の実現と、滞在・活動したくなるコンテンツづくりに取り組み、各目標指標の達成を目指す。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】　（基準日：毎年度 12 月 31 日）

（中心市街地区域）	平成 30 年度（計画前年度）	令和元年度（1 年目）	令和２年度（２年目）	令和３年度（３年目）	令和４年度（４年目）	令和５年度（５年目）	令和６年度（最終年度）
人口	14,222	14,192	14,375	14,576	15,026		
人口増減数	140	△30	183	201	450		
自然増減数	－	－	－	－	－		
社会増減数	－	－	－	－	－		
転入者数	－	－	－	－	－		

※中心市街地区域 16 町丁目（春日一丁目、西駅前町、駅前一～四丁目、西中条町、岩倉町、片桐町、元町、大手町、本町、宮元町、別院町、永代町、双葉町）の住民基本台帳人口の合計
※システム上、自然増減数、社会増減数、転入者数については集計困難のため記載していない

【地価】　（単位：円／㎡）

	平成 30 年度（計画前年度）	令和元年度（1 年目）	令和２年度（２年目）	令和３年度（３年目）	令和４年度（４年目）	令和５年度（５年目）	令和６年度（最終年度）
JR 茨木駅付近（東側）（駅前 1-8-19）	331,000	351,000	356,000	361,000	370,000		
JR 茨木駅付近（西側）（西駅前 5-4）	523,000	561,000	570,000	585,000	613,000		
市役所付近（駅前 3-7-1）	360,000	377,000	382,000	384,000	391,000		
阪急茨木市駅付近（永代町 8-30）	350,000	364,000	370,000	373,000	387,000		

2. 令和4年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

令和４年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が長期化する中ではあったが、目標指標のうち新規出店数と歩行者通行量が増加し、改めて中心市街地のポテンシャルが認識された。特に、通行量に関しては昨年まで減少していた中心市街地の中心に位置する市民会館跡地地点で増加に転じた他、商店街周辺地点で増加を継続しており、住む場所の近く、身近なまちなかで消費の場や多様な過ごし方を求める動きがより顕著に見られた。

また、公共空間活用件数については、昨年度と同等の数値と伸び悩んだものの、新型コロナウイルス感染症の拡大による影響下の中にあっても、令和５年秋の文化複合施設・広場の開館に向け、滞在したくなるような居心地の良い空間や企画を創出しようという市民や事業者の意欲や機運は低下することなく、市民会館跡地活用を検討・試行するIBALAB@広場や、まちづくり会社によるイベントをはじめ、創意に満ちた多様な試みが行われた。

また、官学民が連携して立ち上げたまちづくり会社による複合施設「omo café+c」が令和４年５月に開業し、施設の運営を通じた魅力ある商空間形成と、クリエイターによるワークショップ開催や市北部地域の野菜等を販売するマルシェ等、多様な主体の巻き込み・連携を推進しており、周辺エリアにおいても個性豊かな飲食店等が出店するなど中心市街地内での新規出店の動きを今後さらに牽引していくことが期待される。その他、令和５年３月１日にＪＲ茨木駅東口のいばらきスカイパレットにて、道路の占用の特例を活用したコンテナ型カフェ「milk|stand|cafe elle」を誘致し、市民がゆったりと滞在できるような新たな魅力ある集いの場が創出された。

令和５年は、中心市街地の中心で文化複合施設及び広場「おにクル」が開館を迎える年でもあり、これまで市民や事業者が培ってきた、多様な市民活動や事業運営の工夫とノウハウの蓄積を活かし、施設整備の効果を十分にまちの魅力や新しい時代の賑わいにつなげていくことが重要である。

様々な行動制限の中で取組を進めなければならなかった新型コロナウイルス感染症拡大の影響下においても、新しいニーズを捉え、官民ともに着実に事業を進め、実践してきたことは、中心市街地の魅力向上に関わる各主体の大きな経験・力となった。今後は、まちづくり会社をはじめ、地域内外での連携を一層強め、計画推進に着実に取り組むことにより、目標指標が達成できるよう注視していく。

Ⅱ．目標ごとのフォローアップ結果

1．目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの改善状況	前回の見通し	今回の見通し
中心商業機能の質の更新	計画掲載事業を活用した新規出店数	8.4 店/年（H26～H30 平均）	13.3 店/年（R1～R6 平均）	15 店/年（R4）	A	①	①
滞在・活動の場の創出	平日昼間の歩行者通行量（平日：9～17 時）	27,438 人/日（H29）	30,712 人/日（R6）	35,018 人/日（R4）	A	①	①
	【参考指標】公共空間活用件数	87 件/年（H30）	125 件/年（R6）	46 件/年（R4）	C	②	②

＜基準値からの改善状況＞
Ａ：目標達成、Ｂ：基準値より改善、Ｃ：基準値に及ばない

＜目標達成に関する見通しの分類＞
①目標達成が見込まれる　②目標達成が見込まれない
※関連する事業等の進捗状況が順調でない場合はそれぞれ１、２とする。

2．目標達成見通しの理由

「計画掲載事業を活用した新規出店数」については、茨木市創業促進事業補助金及び茨木市小売店舗改築（改装）事業補助金により出店者を支援しているほか、令和４年５月に開業したまちづくり会社による複合施設「omo café+c」内でのクリエイター誘致を行ったことにより、前年度の令和３年の 13 店／年から増加し、15 店／年となった。令和３年の 14,576 人から 15,026 人へと増加した中心市街地内人口やまちなかで増加する歩行者通行量といった人流のポテンシャル、茨木商工会議所やまちづくり会社等と連携した情報発信や出店への後押し等の効果が新規出店へとつながったものと推察される。今後も、まちづくり会社による複合施設「omo café+c」をきっかけとしたクリエイターや起業家の呼び込みや、店舗誘致事業の推進等を予定していることから、目標達成が見込まれる。

「平日昼間の歩行者通行量」については、中心市街地における人口増加を背景に、令和３年の 31,319 人／日から 35,018 人／日と、昨年度に引き続き目標数値を上回る水準でエリア全体が増加した。地点別でも、全ての地点で増加となったことに加え、商店街周辺や市民会館跡地といったまちなかのポイントでの増加が注目され、自宅周辺で買い物や飲食、憩いや滞在等の行動を求めるウィズ・コロナ時代の生活スタイルの定着により今後も同様の傾向が続くことが予測される。特に商店街周辺での通行量増加は、まちづくり会社による複合施設「omo café+c」での交流イベント等、魅力あるコンテンツによる来訪促進も一つの要因となった。令和４年度中は、新型コロナウイルス感染症の拡大によりイベント等の自粛が続いていたが、今後行動制限が本格的に解除されていくこ

とや、令和５年秋には文化複合施設・広場「おにクル」が開館予定であり、主要事業は概ね順調に進捗していることからも、目標達成が見込まれる。

参考指標である「公共空間活用件数」については、最も多くのイベントが開催されている中央公園が文化複合施設等の整備のため一部工事中であることや、昨年に引き続き新型コロナウイルス感染症の拡大によるイベントの自粛等から、基準値である 87 件/年からは大幅に少ない 46 件/年となった。一方で、「茨木フェスティバル」や「農業祭」をはじめ、新型コロナウイルス感染症の影響で中止を余儀なくされていたイベントが数年ぶりに開催され、多くの市民で賑わった。また、目標指標には含まれないものの、中央公園に隣接して暫定的に設けられている IBALAB@広場の活用が 199 件と、市民や民間事業者による大小様々なイベントや活動が活発に行われており、公共空間活用の機運は高まっている。新型コロナウイルス感染症の拡大による行動制限も今後本格的に解除されていく中、現在工事中の中央公園南グラウンドに令和５年秋に新施設・広場「おにクル」が開館し、多くの市民等による活用が見込まれることから、回復が期待される。道路空間の活用等も含め、引き続き市民・事業者とともに積極的な公共空間の活用に取組み、目標達成を図る必要がある。

3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

「計画掲載事業を活用した新規出店数」

前回から変更はない。

「平日昼間の歩行者通行量」

前回から変更はない。

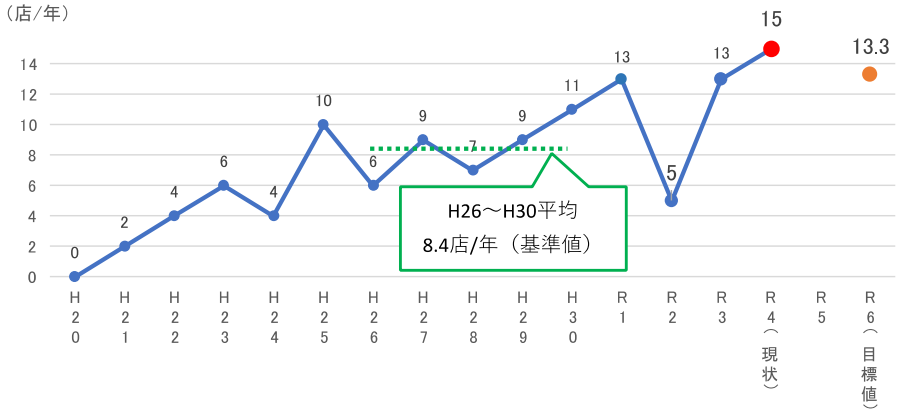
参考指標「公共空間活用件数」

前回から変更はない。

4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

「計画掲載事業を活用した新規出店数」※目標設定の考え方認定基本計画 P. 81 参照

●調査結果と分析



年	店舗/年
H26～H30平均	8.4（基準年値）
R1	13
R2	5
R3	13
R4	15
R6	13.3（目標値）（ただし R1～R6平均）

※調査方法:各年度の「茨木市創業促進事業補助金」及び「茨木市小売店舗改築（改装）事業補助金」の活用件数と、「商店街にぎわい空間整備事業」及び「クリエイターズマーケット整備事業」並びに「まちづくり会社による店舗誘致事業」により整備した店舗数を集計。
※調 査 月:令和５年３月
※調査主体:茨木市
※調査対象:「茨木市創業促進事業補助金」及び「茨木市小売店舗改築（改装）事業補助金」の対象店舗、「商店街にぎわい空間整備事業」及び「クリエイターズマーケット整備事業」並びに「まちづくり会社による店舗誘致事業」により整備した店舗

《分析内容》

「計画掲載事業を活用した新規出店数」の増加に向けた各事業については、茨木市創業促進事業補助金及び茨木市小売店舗改築（改装）事業補助金といった支援事業を活用し、11 店舗の開業が数値を下支えした。また、まちづくり会社による商店街にぎわい空間整備事業及びクリエイターズマーケット整備事業として、古民家を改装したカフェとハンドメイドの複合施設「omo café+c」が令和４年５月に開業、同施設内へのクリエイター誘致により３区画を整備した。

これらの計画掲載事業を活用した新規出店数は 15 店舗/年であり、直近の令和３年における 13 店舗／年、基準値である 8.4 店舗／年を上回り、過去最高の数値となった。ウィズ・コロナに適した業態の創出や、自宅周辺での買い物や飲食、憩いや滞在といった消費者ニーズに対応し、新規出店・創業意欲を持つ事業者が増えていることの現れと考えられる。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①商店街にぎわい空間整備事業（FIC ベース株式会社）

事業実施期間	令和３年度～令和６年度【実施中】
事業概要	商店街内に子供連れでゆったりと過ごすことのできる居心地の良い飲食店の入る商業施設を整備することで、滞在したくなる空間の創出を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値･最新値及び進捗状況	【目標値】１店舗 【最新値】１店舗 事業主体となるまちづくり会社により、古民家物件の改修を実施し、令和４年５月にカフェとハンドメイドクリエイターの販売スペース等からなる複合施設「omo café+c」を整備し、市民ニーズに対応した飲食店１店舗を誘致した。
事業の今後について	居心地の良い飲食店の運営を通じて、魅力ある商空間の形成やエリアのにぎわい創出を牽引するとともに、クリエイ

	ターズマーケット整備事業との相乗効果により、来訪・滞在目的となる場づくりに取り組む。

②クリエイターズマーケット整備事業（FIC ベース株式会社）

事業実施期間	令和３年度～令和６年度【実施中】
事業概要	市内では多数のハンドメイドクリエイターが活躍しており、既存空き店舗の内部を１坪区画に改装することで、クリエイターが低賃料で創業できる環境を整える。多数のクリエイターが集結することで、魅力ある商業空間を創出する。コワーキングスペースを併設することでクリエイターと起業家の共同活動や新たな事業の創出を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値･最新値及び進捗状況	【目標値】９店舗 【最新値】３店舗 既存空き店舗を改装して１坪単位に区画し、ハンドメイドクリエイター等が低賃料で創業できるスペースを９区画整備することで、計画期間（５年４か月）で９店舗の新規出店を見込んでいる。令和４年度はまちづくり会社が空き店舗を改装して整備した複合施設「omo café+c」において、１坪区画の販売スペースと、ワークショップスペースの計３区画を整備した。また、クリエイターの発掘やつながりづくりを目的に、IBALAB@広場や元茨木川緑地も会場としたマルシェ「茨木蚤の市」を開催し、多くのクリエイター等との交流が生まれた。
事業の今後について	複合施設「omo café+c」ではコワーキングスペースとしても利用可能なワークショップスペースを中心に、マルシェ等の多様なイベントや交流企画等を予定しており、引き続きクリエイターの巻き込みを図るとともに、支援制度等新規出店を後押しする情報提供等も併せて行っていくことで、計画期間中の目標達成を目指す。

③まちづくり会社による店舗誘致事業（FIC ベース株式会社）

事業実施期間	令和３年度～令和６年度【実施中】
事業概要	まちづくり会社が市民ニーズに合致した業種・業態の店舗を誘致することで、魅力的な商業空間の形成を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし

事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】2 店舗／年（計画期間中累計 10 店舗） 【最新値】0 店舗／年（計画期間中累計 0 店舗） 不動産事業者と連携して不動産所有者と創業・出店意欲のある人を繋ぎ、遊休不動産の積極的活用を促進し、５年４か月で 10 店舗の新規出店を見込んでいる。 令和 4 年度は複合施設「omo café+c」及び道路空間活用事業の誘致と並行して本事業を進めてきたが、今年度期間中の店舗誘致には至らなかった。
事業の今後について	基本計画に定めた事業実施期間での円滑な着手に向け、事業主体となるまちづくり会社で空き店舗の調査や仲介業者・不動産所有者とのつながりづくり、SNS やメディアを活用した情報発信等による出店希望者の発掘に取り組む。

④-1 茨木市創業促進事業補助金の拡充（茨木市）

事業実施期間	平成 15 年度～【実施中】
事業概要	飲食店や小売店舗の新規創業に対して、開業に要する経費を補助することで創業を促進し、商業機能の更新を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】10 店舗／年※ただし④-1 と④-2 合計 【最新値】10 店舗／年※④-1 のみ 10 店舗の新規出店となり、基準年値である 5.2 店舗（平成 26～平成 30 年平均）を上回った。ウィズ・コロナに適した業態の創出や、住宅地周辺での買い物や飲食、憩いや滞在といった消費者ニーズの変化に対応し、新規出店・創業意欲を持つ事業者が増えたものと考えられる。今後も茨木市創業促進事業補助金と茨木市小売店舗改築（改装）事業補助金を合わせて、年間 8.4 店舗以上の水準を維持し、目標年次には上記２事業合わせて目標数値の年間 10 店舗の新規出店の達成を見込んでいる。
事業の今後について	中心市街地内で本事業を活用した開業が行われるよう、新規開業希望者への情報提供や新規開業に向けた研修等、商工会議所等が実施する事業との連携を積極的に図る。また、まちづくり会社による店舗等物件情報の収集活動とも連携を図り、本事業を活用した開業促進に取り組む。

④-2 茨木市小売店舗改築（改装）事業補助金の拡充（茨木市）

事業実施期間	平成 14 年度～【実施中】

事業概要	既存小売店舗の改装や２店舗目の出店、業態変更に係る費用を補助することで、商業機能の質の更新を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値･最新値及び進捗状況	【目標値】10 店舗※ただし④-1 と④-2 合計 【最新値】1 店舗※④-2 のみ 1 店舗の新規出店となり、基準年値である 3.2 店舗(平成 26～平成 30 年平均)を下回った。ただし、茨木市創業促進事業補助金と茨木市小売店舗改築(改装)事業補助金を合わせて、年間 8.4 件以上の水準は維持しており、目標年次には上記2事業合わせて目標数値の年間 10 店舗の新規出店の達成を見込んでいる。
事業の今後について	中心市街地内で本事業を活用した改装が行われるよう、市内物販・飲食店への情報提供や、商工会議所等が実施する事業との連携を積極的に図る。また、まちづくり会社による店舗等物件情報の収集活動とも連携を図り、本事業を活用した開業促進に取り組む。

●目標達成の見通し及び今後の対策

令和４年の「計画掲載事業を活用した新規出店数」は基準値を上回り、過去最高の数値という結果となった。

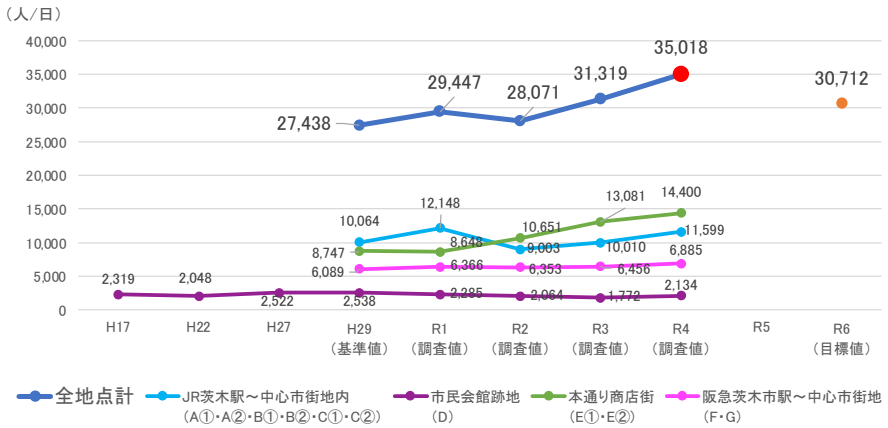
この背景として、令和元年までは新規出店数が増加を継続していたことや、中心市街地内の人口が増加していることから、中心市街地の立地ポテンシャル自体は維持されていたことが考えられる。また、新型コロナウイルス感染症の拡大という厳しい環境下にあっても、中心市街地全体や、特に商店街周辺の歩行者通行量は増加しており、自宅周辺での買い物や飲食、憩いや滞在といったウィズ・コロナ時代の消費者ニーズが拡大していたものと推察される。茨木商工会議所の創業支援等の取組や、情報発信等とも連携した結果、中心市街地内での開業に挑戦する事業者が増加したものと考えられる。さらに、令和４年５月にはまちづくり会社による古民家を改装したカフェとハンドメイドの複合施設「omo café+c」が開業、同施設内へのクリエイター誘致が実現しており、令和５年度以降は同施設の運営等を通じ新規出店の創出に弾みをつけていくことが期待される。

今後も、茨木商工会議所やまちづくり会社と連携した情報収集・発信に努めるとともに、新しい生活様式に合った商業空間やまちの魅力形成等を図ることにより、目標達成が可能と見込まれる。

今後は茨木商工会議所の創業支援等の取組と連携を引き続き図りつつ、ウィズ・コロナ時代に合った店舗づくりや誘致すべき業種・業態等について情報収集・提供活動を展開し、まちづくり会社による店舗誘致事業とも連携し、目標達成を目指していく。

「平日昼間の歩行者通行量」※目標設定の考え方認定基本計画 P. 82～P. 85 参照

●調査結果と分析



年	人/日
H29	27,438 （基準年値）
R1	29,447
R2	28,071
R3	31,319
R4	35,018
R6	30,712 （目標値）

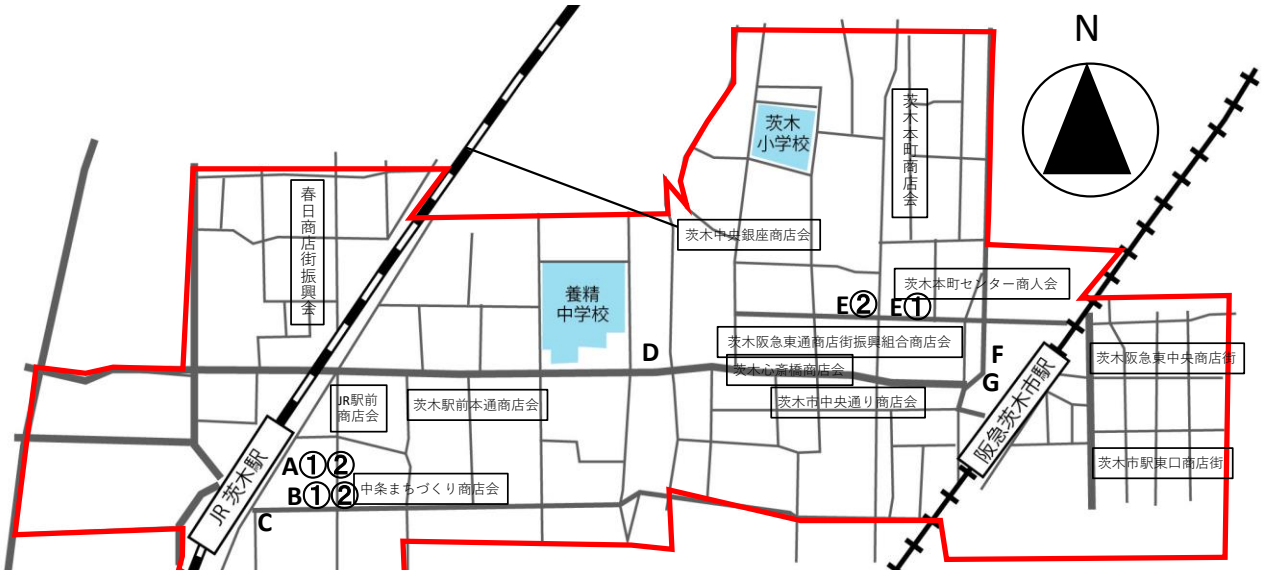
※調査方法：歩行者・自転車通行者、毎年 11 月の平日に中心市街地内 10 地点において午前７時から午後７時までの 12 時間計測。

※調 査 月：令和４年 11 月

※調査主体：茨木市

※調査対象：中心市街地内 10 地点（A①JR 茨木駅商店街側エスカレーター、A②JR 茨木駅商店街側居酒屋前、B①JR 茨木駅阪急オアシス前エスカレーター、B②JR 茨木駅阪急オアシス前、C JR 茨木駅立命館方面エスカレーター、D 市民会館跡地、E①本通り商店街（阪急茨木市駅方面）、E②本通り商店街（城跡方面）、F 阪急茨木市駅商店街側、G 阪急茨木市駅市役所側）

（調査地点図）



（各調査地点の歩行者通行量）

調査地点		R1（調査値）	R2（調査値）	R3（調査値）	R4（調査値）
A①	JR茨木駅商店街側エスカレーター	1,833	1,904	1,870	2,198
A②	JR茨木駅商店街側居酒屋前	247	228	188	195
B①	JR茨木駅阪急オアシス前エスカレーター	2,758	2,375	2,362	2,446
B②	JR茨木駅阪急オアシス前	1,490	1,000	849	1,043

C	JR茨木駅立命館方面エスカレーター	5,820	3,496	4,741	5,717
D	市民会館跡地	2,285	2,064	1,772	2,134
E①	本通り商店街（阪急茨木市駅方面）	8,129	8,609	9,179	8,624
E②	本通り商店街（城跡方面）	519	2,042	3,902	5,776
F	阪急茨木市駅商店街側	3,867	3,557	3,616	3,877
G	阪急茨木市駅市役所側	2,499	2,796	2,840	3,008
全地点計		29,447	28,071	31,319	35,018

《分析内容》

「平日昼間の歩行者通行量」は、令和６年度の目標値である 30,712 人／日を上回り、35,018 人／日となった。

中心市街地内の各調査地点の歩行者通行量を、JR 茨木駅（A～C の合計）、市民会館跡地（D）、商店街（E①～E②の合計）、阪急茨木市駅（F・G の合計）で括り増減をみると、いずれも令和３年よりも増加しており、エリア内での人口増加の影響が全体に現れているものと推察される。

特に、本通り商店街地点では、新型コロナウイルス感染症の拡大以前の令和元年までは JR 茨木駅～中心市街地内地点よりも低い数値で推移していたが、令和２年の新型コロナウイルス感染症拡大の影響下以降は他の地点よりも高い数値で増加を続けている。新たな生活様式が定着し、リモートワークの増加等で鉄道駅利用者が減った一方、大阪市等他地域ではなく自宅周辺で買い物や飲食、憩いや滞在等の行動を求めるニーズが増加した様子が、本通り商店街地点の動向からは推測される。商店街周辺でまちづくり会社が複合施設「omo café+c」を開業、魅力ある商空間の形成を牽引しているほか、周辺地域の新規店舗出店も追い風となり、施設内での交流イベント等も実施することで、人々の来訪・滞在が促されたことも、本通商店街での歩行者通行量増加要因の一つとして考えられる。

また、中心市街地の中央に位置する市民会館跡地地点は、令和元年から令和３年にかけて、新型コロナウイルス感染症の拡大に加え文化複合施設整備事業の施設整備着工により市民会館やグラウンドが閉鎖されたため、通行量が減少していたが、令和４年は増加に転じており、新型コロナウイルス感染症の拡大以前の水準に戻りつつある。令和５年には、文化複合施設整備事業及び中央公園（南）整備事業の竣工を迎えることからも、施設整備による波及効果や、今後さらに戻ることが予想される人流を、エリア内の回遊性の向上に繋げていくことを目指す。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①道路空間活用事業（FIC ベース株式会社）

事業実施期間	令和４年度～令和６年度【実施中】
事業概要	道路の占用の特例を活用し、JR 茨木駅東口及び阪急茨木市駅西口駅前広場にオープンカフェを設置し、まちづくり会社が定期的にイベントを実施する等により賑わいの創出を図る。

国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし	
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】1,747 人／日（エリア全体の計測ポイントでの増加分） ＜参考＞本事業による増加分は 60 人／日 【最新値】7,580 人／日の基準年からの増 ＜参考＞JR 茨木駅～中心市街地への計測ポイントでの増加分は 1,535 人／日 当該事業により一日当たり 60 人の平日昼間の歩行者数増加を見込んでいる。令和５年３月より、まちづくり会社が JR 茨木駅東口のいばらきスカイパレットにおいてコンテナ型カフェ「milk|stand|cafe elle」を設置し、子育て中の方がこだわりのドリンクや軽食を扱うスタンドカフェ運営を行っている。最新値はコンテナ型カフェ設置前の数値だが、駅前空間の賑わい創出や歩行者通行量の増加につながっていることが推測される。	
事業の今後について	JR 茨木駅東口に続き、基本計画に定めた事業実施期間での阪急茨木市駅西口駅前広場でのオープンカフェの設置に向け、事業主体となるまちづくり会社で事業計画や出店者募集、各種申請手続き等の準備を進める。	

② 文化複合施設整備事業（地域交流センター整備・子育て支援機能整備・図書館整備）（茨木市）

事業実施期間	令和２年度～令和５年度【実施中】	
事業概要	中央公園南グラウンド南側緑地にホールなどの機能を備えた文化複合施設の整備を行う。文化複合施設には大屋根のあるオープンスペースを整備し、集いの場の創出を図る。	
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業（国土交通省）（令和２年度～令和５年度）	
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】1,747 人／日（エリア全体の計測ポイントでの増加分） ＜参考＞本事業による増加分は 1,305 人／日 【最新値】7,580 人／日の基準年からの増 ＜参考＞市民会館跡地では 404 人／日の基準年からの減 文化複合施設整備事業と中央公園（南）整備事業により、大屋根のある中間領域を備えた文化複合施設と芝生広場が現在の中央公園南グラウンドに一体的に整備され、一日当	

	たり 1,305 人の平日昼間の歩行者数増加を見込んでいる。当該事業実施地に最も近い計測ポイントである市民会館跡地では、基準年より 404 人／日の歩行者通行量の減となっているが、中心市街地全体では増加しているほか、令和５年度中の施設開館に向けて円滑に事業は進行していることからも、目標年次での目標達成が見込まれる。
事業の今後について	文化複合施設整備事業を進め、令和５年度の施設開館を目指す。

③ 中央公園（南）整備事業（茨木市）

事業実施期間	令和２年度～令和５年度【実施中】
事業概要	文化複合施設の整備と併せて、中央公園の南グラウンドを芝生化し、「育てる広場」のキーコンセプトのもと、ゆったりと過ごすことのできる憩いのスペースを整備する。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業（国土交通省）（令和２年度～令和５年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】1,747 人／日（エリア全体の計測ポイントでの増加分） ＜参考＞本事業による増加分は 294 人／日 【最新値】7,580 人／日の基準年からの増 ＜参考＞市民会館跡地では 404 人／日の基準年からの減 中央公園でのイベント実施、元茨木川緑地再整備事業並びに文化複合施設整備事業により、一日当たり 294 人の平日昼間の歩行者数増加を見込んでいる。当該事業実施地に最も近い計測ポイントである市民会館跡地では、基準年より 404 人／日の歩行者通行量の減となっているが、中心市街地全体では増加しているほか、令和５年度中の施設竣工に向けて、円滑に事業は進行していることから、目標年次での目標達成が見込まれる。
事業の今後について	中央公園（南）整備事業を進め、令和５年度の広場竣工を目指す。

④商店街にぎわい空間整備事業（FIC ベース株式会社）

事業実施期間	令和３年度～令和６年度【実施中】
事業概要	商店街内に子供連れでゆったりと過ごすことのできる居心地の良い飲食店の入る商業施設を整備することで、滞在したくなる空間の創出を図る。

国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし	
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】1,747 人／日（エリア全体の計測ポイントでの増加分） ＜参考＞本事業による増加分は 80 人／日 ※ただし事業④⑤の和 【最新値】7,580 人／日の基準年からの増 ＜参考＞商店街周辺では 5,653 人／日の基準年からの増 カフェとクリエイタースペースから構成される複合施設「omo café+c」を令和４年５月に整備し、一日当たり 80 人の平日昼間の歩行者数増加を見込んでいる。複合施設「omo café+c」に最も近い計測ポイントの商店街周辺では、歩行者通行量が基準年より 5,653 人／日の増加となっており、上記複合施設開業の効果も発現しているものと推測される。	
事業の今後について	引き続き市民ニーズに合った、来訪目的となるような居心地の良い魅力的な飲食店を運営し、賑わい創出を図る。	

⑤クリエイターズマーケット整備事業（FIC ベース株式会社）

事業実施期間	令和３年度～令和６年度【実施中】
事業概要	市内では多数のハンドメイドクリエイターが活躍しており、既存空き店舗の内部を１坪区画に改装することで、クリエイターが低賃料で創業できる環境を整える。多数のクリエイターが集結することで、魅力ある商業空間を創出する。コワーキングスペースを併設することでクリエイターと起業家の共同活動や新たな事業の創出を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】1,747 人／日（エリア全体の計測ポイントでの増加分） ＜参考＞本事業による増加分は 80 人／日 ※ただし事業④⑤の和 【最新値】7,580 人／日の基準年からの増 ＜参考＞商店街周辺では 5,653 人／日の基準年からの増 カフェとクリエイターによる販売・ワークショップスペースから構成される複合施設「omo café+c」を令和４年５月

	に整備し、一日当たり 80 人の平日昼間の歩行者数増加を見込んでいる。複合施設「omo café+c」に最も近い計測ポイントの商店街周辺では、歩行者通行量が基準年より 5,653 人／日の増加となっており、上記複合施設開業の効果も発現しているものと推測される。
事業の今後について	複合施設「omo café+c」を運営するまちづくり会社により、クリエイターのワークショップやマルシェ等の交流イベント等を実施する予定であり、来訪目的となるようなコンテンツの提供により賑わいの創出を図る。

⑥立命館大学留学生商店街連携事業（立命館大学）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	商店街と留学生が連携・交流しながら留学生向けの商店街マップを作成し、留学生の商店街への来街を促進する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値･最新値及び進捗状況	【目標値】1,747 人／日（エリア全体の計測ポイントでの増加分） ＜参考＞本事業による増加分は８人／日 【最新値】7,580 人／日の基準年からの増 立命館大学留学生商店街連携事業により、一日当たり８人の平日昼間の歩行者数増加を見込んでいる。
事業の今後について	引き続き事業を継続し、歩行者通行量の増加を図る。

●目標達成の見通し及び今後の対策

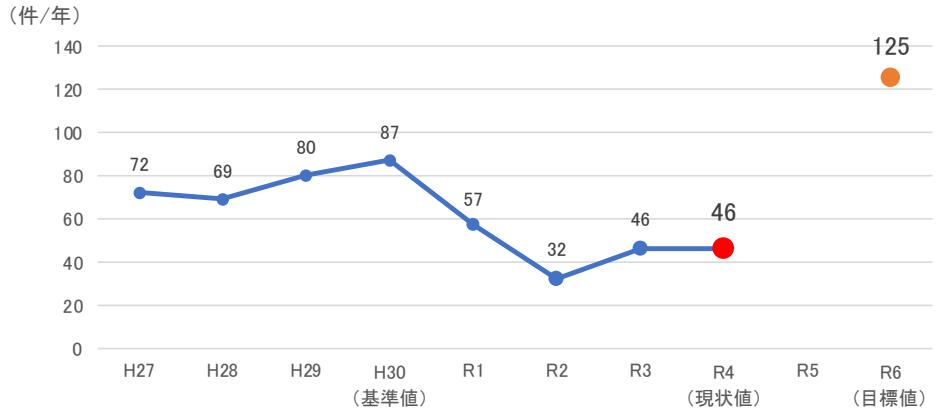
中心市街地における人口増加を背景に、エリア全体の歩行者通行量は増加、特に商店街周辺地点といった交通結節点ではないポイントでの増加は、自宅周辺で買い物や飲食、憩いや滞在等の行動を求めるウィズ・コロナ時代の生活スタイルの定着の現れとも捉えられ、今後も同様の傾向が続くことが予測される。また、文化複合施設等の整備をはじめとした主要事業は概ね順調に進捗しており、目標達成は可能だと思われる。

令和４年度中は、新型コロナウイルス感染症の拡大状況等により、時期によっては道路空間の活用等イベント等の実施を見合わせることもあったが、令和５年度以降は密を回避した運営や生活様式の変化に対応した魅力発信等に配慮しながら実施を図る。

特に、令和５年秋に開館予定の文化複合施設・広場の整備波及効果が十分に発現されるよう、まちづくり会社による複合施設「omo café+c」での交流イベント等の展開や、周辺エリアでの店舗誘致、いばらきスカイパレット等でのマルシェ開催をはじめとする道路空間活用事業の実施、大学と連携した情報発信等に引き続き取り組み、中心市街地内への回遊を誘導する。

参考指標「公共空間活用件数」※目標設定の考え方認定基本計画 P.86～P.87 参照

●調査結果と分析



年	件/年
H30	87（基準年値）
R1	57
R2	32
R3	46
R4	46
R6	125（目標値）

※調査方法：各年度の中心市街地内の主な公共空間（いばらきスカイパレット、阪急茨木市駅西口駅前広場、中央公園グラウンド、岩倉公園）で市へ利活用の届出のあった年間件数の和を算出。

※調 査 月：令和５年３月

※調査主体：茨木市

※調査対象：中心市街地内の主な公共空間（いばらきスカイパレット、阪急茨木市駅西口駅前広場、中央公園グラウンド、岩倉公園）でのイベント等件数

《分析内容》

「公共空間活用件数」については、最も多くのイベントが開催されている中央公園で、南グラウンドが文化複合施設等の整備により利用できなくなっていることや、新型コロナウイルス感染症拡大の影響によるイベントの自粛等から、昨年度に引き続き基準値である 87 件/年（いばらきスカイパレット５件、中央公園グラウンド 72 件、岩倉公園 10 件）よりも大幅に低い数値の 46 件/年（いばらきスカイパレット３件、阪急茨木市駅西口駅前広場０件（同一開催のものはいばらきスカイパレットの件数に含む）、中央公園グラウンド 38 件、岩倉公園５件）となっている。一方で、調査対象外にはなるが、中央公園に隣接して暫定的に設けられている IBALAB@広場の活用が 199 件と、市民等による公共空間活用の機運は高まっており、令和５年秋の中央公園（南）整備事業竣工後の広場活用や、まちづくり会社により JR 茨木駅東口のいばらきスカイパレットに誘致されたコンテナ型カフェが令和５年３月から運営開始したこと等も踏まえ、今後はより活発に公共空間が活用されることが予想される。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

① 文化複合施設整備事業（地域交流センター整備・子育て支援機能整備・図書館整備）（茨木市）

事業実施期間	令和２年度～令和５年度【実施中】
事業概要	中央公園南グラウンド南側緑地にホールなどの機能を備えた文化複合施設の整備を行う。文化複合施設には大屋根のあるオープンスペースを整備し、集いの場の創出を図る。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業（国土交通省）（令和２年度～令和５年度）
事業目標値･最新値及び進捗状況	【目標値】84 件／年（中央公園の基準値である 72 件に活用見込 12 件を加算） 【最新値】38 件／年 文化複合施設整備事業と中央公園（南）整備事業により、大屋根のある中間領域を備えた文化複合施設と芝生広場が現在の中央公園南グラウンドに一体的に整備され、両事業合わせて年間 12 件の公共空間（中央公園）の活用増を見込んでいる。令和４年度においては、中央公園において年間 38 件と基準年からも減少となったが、南グラウンドが両整備事業のため利用ができない状況にあることが主な要因と考えられる。
事業の今後について	中央公園に隣接する IBALAB@広場の市民・事業者と連携した活用等を引き続き進め、公共空間活用に対する機運の醸成に努めつつ、文化複合施設整備事業の令和５年秋の運営開始後に施設のオープンスペースが円滑に活用されることを目指す。

② 中央公園(南)整備事業(茨木市)

事業実施期間	令和２年度～令和５年度【実施中】
事業概要	文化複合施設の整備と併せて、中央公園の南グラウンドを芝生化し、「育てる広場」のキーコンセプトのもと、ゆったりと過ごすことのできる憩いのスペースを整備する。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業（国土交通省）（令和２年度～令和５年度）
事業目標値･最新値及び進捗状況	【目標値】84 件／年（中央公園の基準値である 72 件に活用見込 12 件を加算） 【最新値】38 件／年 文化複合施設整備事業と中央公園（南）整備事業により、大屋根のある中間領域を備えた文化複合施設と芝生広場が現在の中央公園南グラウンドに一体的に整備され、両事業合わせて年間 12 件の公共空間（中央公園）の活用増を見込んでいる。令和４年度においては、中央公園の活用件数は

	年間 38 件と基準年からも減少となったが、南グラウンドが両整備事業のため利用ができない状況にあることが主な要因と考えられる。
事業の今後について	中央公園に隣接する IBALAB@広場の市民・事業者と連携した活用等を引き続き進め、公共空間活用に対する機運の醸成に努めつつ、中央公園（南）整備事業の令和５年度秋の広場運営開始後は、多くの市民等に活用されることを目指す。

③道路空間活用事業（FIC ベース株式会社）

事業実施期間	令和４年度～令和６年度【実施中】
事業概要	道路の占用の特例を活用し、JR 茨木駅東口及び阪急茨木市駅西口駅前広場にオープンカフェを設置し、まちづくり会社が定期的にイベントを実施する等により賑わいの創出を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値･最新値及び進捗状況	【目標値】29 件／年（いばらきスカイパレット・阪急茨木市駅西口駅前広場の基準値である５件に活用見込 24 件の加算） 【最新値】3 件／年 JR 茨木駅東口のいばらきスカイパレット・阪急茨木市駅西口駅前広場それぞれ年間 12 件、合わせて年間 24 件の公共空間活用件数を見込んでいる。令和４年度までは新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、予定されていた活用が見合わせとなり、ウィズ・コロナに合わせて事業計画の再検討を余儀なくされたが、令和５年３月より、まちづくり会社が JR 茨木駅東口のいばらきスカイパレットにおいてコンテナ型カフェ「milk|stand|cafe elle」を誘致し、本格的な活用への緒についた状況にある。阪急茨木市駅西口駅前広場においては、公共空間活用に向けて道路管理者や警察等との協議等の準備段階にあり、実際の活用には至っていない。
事業の今後について	まちづくり会社によるいばらきスカイパレットでのマルシェ等の定期的なイベント開催を推進していくとともに、阪急茨木市駅西口駅前広場の活用についても基本計画に定めた事業実施期間での着手を目指し、事業主体となるまちづくり会社で準備を進める。

④「次なる茨木・クラウド。」プロジェクト（茨木市）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	中心市街地内の公共空間の活用に向けて、まちづくりの専門家による勉強会やワークショップ等を行う。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和元年度～令和６年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】2 件／年（本事業における活用件数） 【最新値】0 件／年（本事業における活用件数） 勉強会やワークショップ等への参加をきっかけとした市民・事業者等による公園や両駅前広場等の公共空間の活用により、年間２件の活用増を見込んでいる。令和４年度は、中央公園に隣接して暫定的に設けられている IBALAB@広場の活動が市民や事業者により展開され、実績値には含まれないが社会実験としてマルシェや音楽イベント等特色ある取組が年間 199 件と多数実施され、工夫をしながら公共空間を豊かに楽しみたいという市民ニーズが確認された。また、まちづくり会社により実施された「茨木蚤の市」は多くのクリエイターが参加し、まちなかの回遊行動の誘導や公共空間を活用する実践の機会となり、今後の中心市街地活性化における多様な主体の巻き込みに貢献するものとなった。その他、JR 茨木駅西口駅前のまちづくりを考える市民ワークショップの開催や、中央通り・東西通りにおける沿道空間活用に向けた社会実験「茨木みちクルプロジェクト」等の市民や民間事業者を巻き込んだ取組が行われた。
事業の今後について	引き続き市民や事業者による IBALAB@広場の活動をはじめ、社会実験やワークショップ等を通じたまちづくりの担い手の出会いの場の提供や人材育成等の取組を進めるとともに、公共空間を活用する実践の機会を設け、目標の達成を図っていく。

●目標達成の見通し及び今後の対策

「公共空間活用件数」の増加に向けた主要事業は概ね順調に進捗した一方、昨年に引き続き新型コロナウイルス感染症拡大の影響によるイベントの自粛等の影響から、平成 30 年の基準値である 87 件/年からは大幅に少ない 46 件/年となった。

一方で、中央公園に隣接して仮設的に設けられている IBALAB@広場では、市民や学生、民間事業者等により、創意工夫を凝らした大小様々なイベント等の試みが行われ、公共空間活用の機運は高まっている。新型コロナウイルス感染症の拡大による制限を受

けながらも市民等により行われた多数の試み・検討は、ウィズ・コロナにおいても公共空間を活用していくためのノウハウの蓄積でもある。

新型コロナウイルス感染症の拡大による行動制限も今後本格的に解除されていく中、令和５年３月からまちづくり会社により JR 茨木駅前いばらきスカイパレットに誘致されたコンテナ型カフェが運営開始、令和５年度中には文化複合施設整備事業及び中央公園（南）整備事業並びに元茨木川緑地再整備事業の竣工を控える等、これまで市民が培ってきた機運やノウハウが、より活発で豊かな公共空間の活用といった形で今後花開くことが期待される状況にある。これら事業の完成後には市民や民間事業者等による多くの活用が期待されることから、基準値程度への目標指標の回復が見込まれる。

今後中心市街地の中心部に文化複合施設・広場等が竣工された際に十分な相乗効果を得るためにも、引き続きまちづくり会社による道路空間活用事業の実施や、公共空間を活用する実践の機会を積極的に設け、市民・事業者との共創により目標達成を図る。